

1. まえがき 海水飽和地盤における淡水注入溝からの浸透については既に N.L. Ackermann 氏らによって理論解析が行なわれ、電気モデルによる実験によって検討された報告¹⁾があるが、これは海水飽和地盤上に2列に矢板を打込み、この矢板の内部を淡水注入溝(以下において溝とす)とし、かつ、溝の底面を外部の地盤と同じレベルにした場合についてである。本報では図-1に示しているように溝に任意の深さ H_w を与えた場合を取扱い、解析結果を実験によって検討した。なお、前記 N.L. Ackermann 氏らの解析されたものは溝の深さ $H_w=0$ とすることによって本報の理論に含まれる。

2. 解析 図-1に示しているように淡水の単位重量を γ 、海水のそれを γ' とし、海水は流れていないと仮定する。溝の側壁(CD)は不透水性の矢板壁であり、その下に根入部(DE)があり、その厚さは無視できるものとする。流れの関数を ϕ 、速度ポテンシャルを ψ とすると、 x および y 方向の流速はそれぞれ

$$u = \frac{\partial \phi}{\partial x} \quad v = \frac{\partial \phi}{\partial y} \quad ; \quad \psi = \frac{\partial \phi}{\partial y} \quad \text{or} \quad -\frac{\partial \phi}{\partial x} \quad \dots (1)$$

複素ポテンシャル w は $w = \phi + i\psi$ (2)

次に流れの場の任意点における圧力水頭を x 軸を基準として h とすればその点の圧力 P は

$$P = \gamma(h - y) \quad \therefore h = \frac{P}{\gamma} + y \quad \dots (3)$$

一方、透水係数を k とすると Darcy の法則は

$$u = k \frac{\partial \phi}{\partial x} \quad ; \quad v = k \frac{\partial \phi}{\partial y} \quad \dots (4)$$

(1)式と(4)式から $\phi = k h = k(\frac{P}{\gamma} + y)$ (5)

浸透境界の外側では海水は流れていないから、この境界における任意点の圧力を P_0 とすると

$$P_0 = \gamma'(H_w - y) \quad \dots (6)$$

これを(5)式の P に適用すると浸透境界における速度ポテンシャル ψ が求められる。すなわち

$$\frac{\gamma'}{\gamma} H_w = H_w', \quad k \frac{\gamma'}{\gamma} = k', \quad \Delta \gamma = \gamma' - \gamma \quad \dots (7)$$

とあって $\psi_0 = k H_w' - k' y$ (8)

次に Zhukovsky 関数²⁾

$$\left. \begin{aligned} \Omega_1 &= \psi + k' y, \quad \Omega_2 = \psi - k' x \\ \Omega &= \Omega_1 + i\Omega_2 = w - i k' z, \quad z = x + iy \end{aligned} \right\} \quad \dots (9)$$

を導入して w および Ω 平面を画くと、図-2がえられ、流れの場の境界は Ω 平面の矩形の周囲に対応してゐる。

図-1. 流れの場

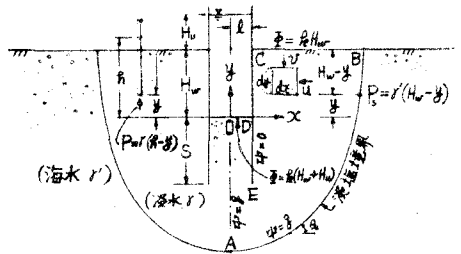
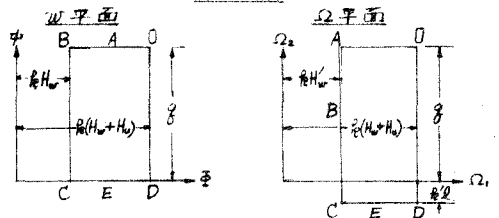
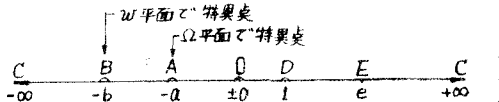


図-2



これらに対する z 平面を図-3のようにえらふ。

図-3. z 平面



とすると Schwarz-Christoffel の定理によって写像関数は

$$dw/dz = N \sqrt{(z-b)(z-t) \cdot (z-1)} \quad \dots (10)$$

$$d\Omega/dz = M \sqrt{(z-a)(z+t) \cdot (z-1)} \quad \dots (11)$$

と与えられる。ここに a, b, e, N および M の値は境界条件によって定まる定数である。(10)および(11)

式を各境界にそれぞれ積分すると未知定数決定の条件式として $K(k)/K(k') = \sqrt{(1 - \frac{a^2}{b^2})} \{ \frac{K(k'')}{K(k'')} + \frac{\Delta \gamma}{\gamma} \frac{b}{H_w} \}$ (12)

$$e = \frac{b \{ (a+1)/(b+1) \} \{ \frac{K(k'')}{K(k'')} (1 - \frac{a^2}{b^2}) \}^2 - a}{1 - \{ (a+1)/(b+1) \} \{ \frac{K(k'')}{K(k'')} (1 - \frac{a^2}{b^2}) \}^2} \quad \dots (13)$$

$$\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0} = \left\{ \left(F(\theta_0, m) / K(m) \right) \left(1 - \frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0} \right) - \frac{F(\theta_0, k)}{K(k)} \right\} \quad \dots (14)$$

$$\left. \begin{aligned} \text{ただし、} & k^2 = 1/(b+1), \quad k'^2 = 1-k^2, \quad m^2 = 1/(a+1), \quad m'^2 = 1-m^2 \\ & a = m'^2/m^2, \quad \sin \theta_0 = \sqrt{(e-1)/e} \end{aligned} \right\} \dots (15)$$

がえられる。ここに $F(\theta, n)$ および $K(n)$ の標示は n を母数とする第一種楕円積分およびその完全楕円積分を意味する。すなわち任意の $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0} (< 1)$, $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ および $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ を与えて (12), (13) および (14) 式を連立に与え、 a, b, e の値が求まる。しかし実際の計算においては、まず $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0}$ および $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ の値のみを与えて、 b を適宜に仮定して (15) 式で $k^2 (= 1-k'^2)$ を求め (12) 式で $m^2 (= 1-m'^2)$ を求め、次に (15) 式で $a (= m'^2/m^2)$ を求め (13) 式で e を求め、(14) 式で θ_0 を求めた後、この仮定の b に対する $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ の値を (14) 式で求める手順で、はじめの b の仮定値を $e, 3$ かえて与えられた $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ に対する a, b, e の値を決定する方が計算は簡単なようである。次に溝の片側への単位奥行当りの流量 q , および浸塩境界の曲線は次式で求められる。すなわち

$$\left. \begin{aligned} q/H_0 &= K(k)/K(k') \\ \frac{\Delta r}{r} \frac{x}{H_0} &= \left\{ \left(1 - \frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0} \right) \cdot F(\theta_0, m) / K(m) \right\} \\ \frac{\Delta r}{r} \frac{z}{H_0} &= \left\{ - \left(1 - \frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0} \right) + F(\theta_0, k) / K(k) \right\} \\ \text{= なる} \quad \sin \theta_0 &= \sqrt{(-a-t)/-t}, \quad \sin \theta_0 = \sqrt{(1+b)/1-t} \\ &-b \leq t \leq -a \end{aligned} \right\} \quad \dots (16)$$

本解析の結果に対して数値計算を行ったものを図-4, 5, 6 に示し、これらについて行った実験の一部を図-7 に示している。

3. 結論 数値計算および実験から次の事が云える。

- (1) $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ について、 $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が大きくなると小さくなる。 $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ が一定になると $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が大きくなると $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ が大きくなる。程小さいと $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が小さいと $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ が大きくなる。程大きい。 $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0}$ が一定になると $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ が大きくなる。程大きい。
- (2) $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0}$ について、 $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ のある値で一般に最小値をもつ。しかし $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0} = 0$ の場合についてだけは $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が大きくなる。程大きい。 $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0}$ が一定になると $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が大きくなると $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が大きくなる。程大きい。 $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0}$ が一定になると $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が大きくなると $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ が大きくなる。程大きい。
- (3) q/H_0 について、 $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ の小さいと $\frac{\Delta r}{r} \frac{S}{H_0}$ が大きくなると急激に小さくなる。 $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ が一定になると $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0}$ が大きくなる。程小さい。 $\frac{\Delta r}{r} \frac{H_w}{H_0}$ が一定になると $\frac{\Delta r}{r} \frac{l}{H_0}$ が大きくなる。程大きい。

参考文献 1) Norbert L. Ackermann and Pachern Seidurrogatum: SALT-WATER INTERFACE NEAR A FRESH-WATER CANAL; HYG. ASCE. 1964
2) 崎山正常: 海水で飽和土中へいる一様な透水性地盤に設けられた淡水注入溝からの浸透について; 昭和40年度土木学会 西部支部研究発表会 論文集 (II-4)

